

simc News Letter

Sendai International Music Competition

2025年6月16日号

仙台国際音楽コンクールニュースレター

第9回仙台国際音楽コンクール【開催日程】ヴァイオリン部門 2025.5.24 (土)～6.8 (日) ピアノ部門 2025.6.14 (土)～2025.6.29 (日)

第9回仙台国際音楽コンクール・ピアノ部門レポート

予選 2日目 2025年6月15日 (日)

音楽ジャーナリスト：須永 誠

第9回仙台国際音楽コンクールのピアノ部門予選2日目は、6月15日午前10時から、日立システムズホールで審査を開始。9の国・地域から出場した19～28歳の12人が演奏した。

ピアノ部門予選の審査は今回、1日10時間程度(最終日は6時間半)かかるが、チケットは1日券で、出入りは自由。開始から終了まで聴く人も多い。休憩時間に、聴衆が館内のソファでパンやおにぎりを食べる様子は、予選でおなじみの光景となっている。

予選初日の入場者は470人、2日目は472人。ヴァイオリン部門より両日とも100人以上多い。ピアノを学ぶ人口がヴァイオリンを上回ることや、同じ3曲を全員が演奏するヴァイオリン部門と比べ、ピアノ部門は多彩な曲を聴けることが好調の背景にあるようだ。

初日のレポートで紹介したように、ピアノ部門予選は出場者が独自のリサイタルプログラムを編成する。クラシック音楽の重要なレパートリーに加えて、演奏機会が少ない曲も数多く含まれる。

2日目はシューマンの作品を取り上げる人が続き、「クライスレリアーナ」「謝肉祭」「子供の情景」と人気曲が並んだ。スクリャービンのソナタ第4番や第9番「黒ミサ」、ストラヴィンスキーの「ペトルーシュカからの3楽章」、バルトークの「ソナタ」や「戸外にて」、バラキレフの「イスラメイ」などコンクールの定番曲で、聴衆の期待が高い曲もそろった。

ブラームスはソナタ第2番、第3番がこの日プログラムに載り、これで青年ブラームスの情熱があふれるソナタ全3曲が出そろった。ブラームスにしては珍しい技巧偏重の「パガニーニの主題による変奏曲」第1集(3日目に演奏予定)と第2集、後期への入り口になった「8つの小品」など、重要な作品にまとめて触れられる機会となった。「イスラメイ」は、ラヴェルがこの曲より技巧的に難しい作品を書こうとして「夜のガスパール」を作曲したエピソードが有名。夜のガスパールは今回も複数の出場者が選択している。

出場者は厳しい予備審査を通過してきたので、技巧的には誰もが高い水準にある。演奏家としての個性やどんな音楽表現を目指すかなどがカギを握る。2日目も初日に続いて、独自の音楽表現をみせる人が多かった。ハイドン、ショパン、ベートーヴェンと並べ、透明感あふれる音色を生かして、ぶれることのない一本の線で結び付けたように感じた演奏があって驚かされた。何人かの演奏で、聴衆から「自分が知っている曲と全然違う演奏スタイルでびっくりした」「もっと多くの演奏を聴いてみたい」などの声が上がった。

若い演奏家が出場する国際音楽コンクールでは、世界の最先端の研究成果を反映した演奏に出会うことがある。筆者の知り合いの音楽家の中には「今世界で何が起きているか、最新の動きを知るためにコンクールを聴く」と話す人がある。

(第3日に続く)

